

# 『下絵具について』

## 1. 下絵具について

素地の上に絵具で絵柄を付け、その上に施釉し焼成する絵付けを下絵付けと呼び、それに使われる絵具が下絵具です。

この下絵具は高温で還元焼成される磁器に使える磁器用下絵具と、硬質陶器や白雲陶器など主に酸化焼成に使用し焼成後も元の色を保つ半磁器絵具と区別されます。

藍色を呈する呉須は、コバルト・マンガン・鉄などを発色金属の主成分とし、最も重要な下絵具ですが、最近では赤・オレンジ・黄色・ミドリなどいろいろな下絵具も開発・登場し、下絵具の絵付けによる色調の幅を広げています。

これらの下絵具の多くは着色金属を高温で固有させて生成されますが、焼成温度や雰囲気により安定性を損なわれる場合もありますので注意が必要です。下絵具を選択する場合には発色とともに焼成条件も加味してください。

## 2. 下絵具の溶き方

下絵具の調整方法としては、乳鉢を用いてまず絵具のみを摺り、そこに茶汁・水、そしてより定着性を高める場合はCMC 1%水溶液を少し加えペースト状とし、そこに数回に分け水などを加えながら準じうすく摺りあげていきます。

上記の通り、下絵具は素地に絵付けしその上に釉薬を掛けて本焼をしますが、素焼きの素地は吸水性により絵具が厚く付きすぎ、焼成後、釉はげ・釉とびを生じることがあります。その場合の対策としては、絵具にご使用の透明釉薬や長石等を20~30%位添加混合し、そして、水などの水分量を多くして、絵具の濃さをよりうすくして使用して下さい。

## 3. 下絵具の応用について

下絵具の応用として、色釉や色土などを作る事も可能です。下絵具の添加量や下絵具同士を混ぜた中間色、そして乳濁剤・失透剤を併用してパステル調の淡彩色の色釉など、陶磁器の色が非常に豊かになります。しかし、程度の差はありますが高温下で釉や土とともに化学変化を起こし、下絵具が犯される可能性があります。

特に色釉とする場合、 $Al_2O_3 \cdot SiO_2$ の少ない釉、 $Al_2O_3 / SiO_2$ 比の大きい組成の釉にその傾向が強いようです。また、釉薬中の塩基成分も下絵具の安定性に大きな作用を持ち、石灰の多い釉、亜鉛の含まれる釉、鉛釉など釉の種類によって下絵具の安定性が異なるので、事前の十分な試験・注意が必要です。